



便り

命

不意に襲ってくる交通事故、刃物による殺傷事件。各方面の知識者が机上の論理を展開しているが、これらの事件から子ども達を守るには具体的にどうしたらよいのか。私のできる防護策として通学団の見守りを続けている。何を論じようが、寄り添って見守り歩く、その方法しか今は無い。

(名華女)

80代の親が50代の子どもの生活を支える。こうした親子の社会的孤立が目立ち始めている。背景には「ひきこもり」の長期高齢化。親の命が子を支え、親の命が絶えれば途端に生活困窮者となりえる。周囲の無関心が問題を広げることにつながります。気になる家庭はありませんか。

(すみちゃん)

人は生まれると必然的に長生きを善しとされる。寝たきりでも医療が助けてくれる。一方で事件、事故により幼い命が奪われる。運なのか？思い出すのは70歳前に倒れた父の事。余命数日と言われたにもかかわらず、検査と称し何度も針を刺してきた。泣きながら拒否したことを忘れられなく。(ばば)



No.42



△ハモン博士のまとめ

105歳で亡くなった医者の故日野原重明先生の著書、絵本『いのちのおはなし』(講談社)の中に「いのちは、きみたちのもっている時間だといえますよ。」という言葉がある。誰にでも平等に与えられる「時間」が「命」だとすれば、どう使うかは、どう生きるかにつながるんじゃないかの。与えられる時間の長さは誰にも平等じゃが、その深さや濃さを量ることができるのは自分だけじゃ。だからこそ、まずは自身の命(時間)を大事にすることが大切じゃな。



問合せ先

おおぐち男女共同参画懇話会(地域協働課)

☎95-1691

子どもが生まれ、初めて顔を見た時、その輝く未来に想いを馳せた。何かのせいで命を浪費するのではなく、何かのために命を使う人生を歩んでいってくれ。

(俺)

身体で「命」という字を表現し、笑いを取る芸人さん。初めて見たときは「上手い」と表現するなあ」と感心しつつ、「命」を笑いのネタにすることに少し不快感を覚えた。その後、その芸人さんが少年院などを慰問し「命の授業」をしていることを知った。おお日本語って深い、命ってすごいと感心したら、身体全体で表現する「命」の文字が尊く見えた。

(チャーミー)

Be Ambitious vol.300

町内にお住まいの 20代の皆さんがリレーで登場!

好きな道へ...

吉田 寛奈さん(大屋敷) H10・12・15生



建築家になりたい

大学の工学部で建築を学んでいます。構造、環境、設計、デザインなど学ぶことは多岐に渡り、難しさに直面する事もありますが、自分が納得のいくまで追求し、知識も深めています。

小さい頃から、工事現場を見るとワクワクするタイプでした。今でも美しい建物を見つけると、思わず見入ってしまいます。身近なところで言うと、母校の大口中学校の美しさが大好きです。中学校に入学してから、設計された黒川紀章さんを知り、黒川さんが手がけた他の建物を調べるうちに建築に興味を持つようになりました。もしかしたら大口中学校に入っていないなかつ

陸上部マネージャーとして

中学・高校と長距離ランナーでしたが、大学ではマネージャーとして部員のサポートをしています。ケガの対処の仕方や、マッサージなど、長距離をやっていた頃の経験が役立っている事が嬉しいです。実は大学では勉強に専念するつもりでしたが、友人から頼まれ引き受けました。週に5日の練習に遠征など忙しい日々ですが、一緒に目標に向かってる仲間と出会え、その仲間に頼ってもらっているのやりがいを感じています!



▲陸上部の合宿にて